

## 式 辞

この会場横の中庭に植えてある紅梅の花も満開になり、2月の平均気温も過去最高を記録し、例年にない早い春が訪れています。

本日、長野県蓼科高等学校令和2年度卒業式を挙げるにあたり、日頃本校の教育振興に格段のご高配をいただいております皆様に、心より御礼申し上げます。

さて、この卒業式は昨年と同様、丸1年続く新型コロナウイルス感染症対策ということで、来賓の皆様と在校生諸君がいない、異例の開催となりました。しかし、両角立科町町長様をはじめとしまして、大勢の来賓の皆様方より、祝意の声を頂戴しておりますことを、ご報告申し上げます。大変ありがとうございました。

また、この会場にご臨席いただきました保護者の皆様、慈しみ育てられたお子様の晴れの旅立ちの日であります。誕生の日から本日までの来し方を振り返れば、感慨も一入のことと拝察申し上げます。本日は心よりお祝いを申し上げます。

そして、ただいま卒業証書を手に入れました86名の卒業生の皆さん、晴れのご卒業おめでとうございます。皆さんは、学校創立120年目の卒業生としてここに足跡を刻むことになりました。皆さんの顔を拝見しますと、最上級生になったこの1年のことがあらためて思い浮かびます。中止になってしまった新入生歓迎行事や生徒総会と前期クラスマッチ。それでも学校再開後、制約の多いなか最善を尽くし、例年以上のものをつくり上げたポプラ祭、盛り上がった後期クラスマッチと強歩大会。学校の雰囲気をも明るく活気のある者に換えた、挨拶運動。皆さんは沢山の思い出と遺産（レガシー）を、後輩と蓼科高校の教職員に残してくれました。ありがとうございます。

卒業式に際し、心にとどめていただきたいことを二つお伝えします。

一つ目。これから就職する人はもちろん、進学する人もその後就職したとき、これから出会う人は大抵あなたより年上で、あなたとは違った人生を歩んできた経験豊富な人たちばかりです。挨拶は自分からするのが当たり前。その上でよく相手のことを理解し、信頼関係を大切にしていってください。なぜならば、仕事をするにしても、日常生活を送るにしても、人との関係を抜きには考えられないからです。

さて、この1年一世を風靡した観のある、「鬼滅の刃」。なぜここまで人気が出て、多くの人が夢中になったのか、その理由の一つに、鬼を完全な悪としてとらえていないことがあります。なぜならば、鬼は以前人間であり、人間であったころ背負っていた、つらい過去がそうさせていると、読者に分かるようになってきているからです。読者はその時、鬼のことを理解したわけです。また、兄弟や姉妹、また親子で鬼になる者と退治する者に分かれたり、肉親の情との葛藤の中で物語が進み、単なる勧善懲悪物に収まらない物語としての深みがあります。私を含め読者はそこに共感し、魅力を感じるのではないのでしょうか。

人間関係もそのように、決して単純なものではありません。しかし、時には関係が悪くな

っても、地道に相手のことを考え行動していくことによって、良い関係が築くことができると思います。

二つ目には、「困ったら、一人で悩まず、まず相談」です。先ほどの良い人間関係を築き信頼関係を大切にする話と繋がります。これから世の中に羽ばたく皆さんは、これから経験を積んで成長していきます。良いことや嬉しいこともたくさん経験しますが、うまくいかないこともたくさん出てきます。そのときそれを打ち明けられる友達、家族、上司、先生やカウンセラーなど、誰でも構いません、打ち明けられる人を必ずつくってください。新型コロナ対策のためおうち時間が増えて、SNSにより直接面と向かって交流する時間が減ってきています。しかし、人間関係の基本はお互いが顔を合わせてから始まります。

そのことも肝に銘じてください。

最期に、何をやるにもまずは健康が大切。どうか健康で夫々の目標にむかって、雄々しく、高く、強くはばたかれんことを祈って、お祝いの言葉といたします。

令和三年三月二日 長野県蓼科高等学校長 宮澤和人